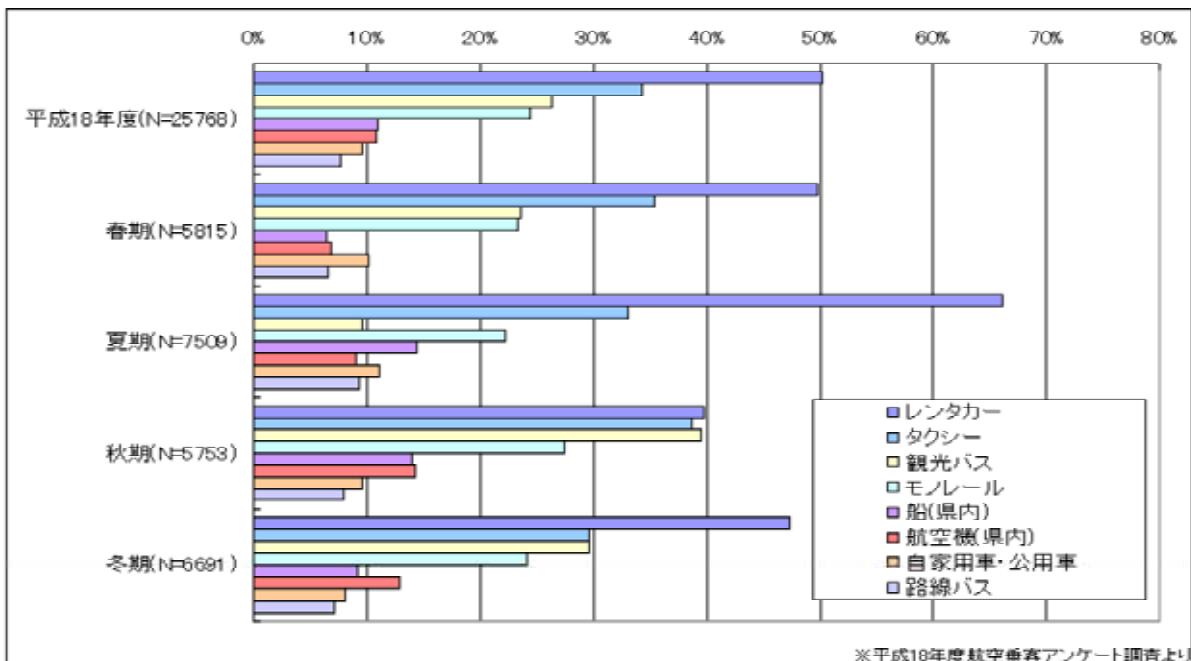


工 県内陸上交通機関

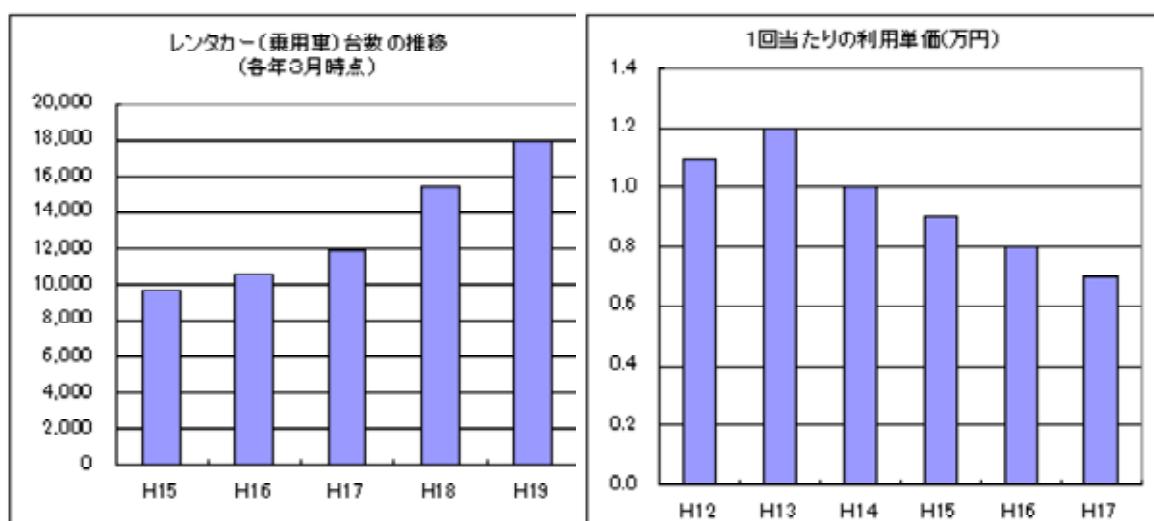
平成18年度に観光客が滞在中に利用した交通手段としては、レンタカーが約半数に達しているが、路線バスの利用率は低くなっている。また、観光バスの利用率は季節変動が大きくなっている。



複数回答

レンタカー

本県を訪れる観光客が最も利用している交通機関がレンタカーであり、登録台数などは、年々増加傾向にある。しかし、利用単価については、依然、減少傾向にある。



資料：陸運事務所輸送課

レンタカーについては、レンタカーデポの利用促進、カーナビシステムにおける情報更新、観光案内標識の充実、観光地付近における駐車場の確保等、様々な課題がある。平成19年9月から、日本と台湾の運転免許証の相互使用が開始された。

貸切バス

貸切バスについては、修学旅行の増加による利用ニーズは高いものの、旅行形態が個人旅行化している中にあって、利用者数は減少傾向にある。特に、前出のように、季節変動が大きくなっている。

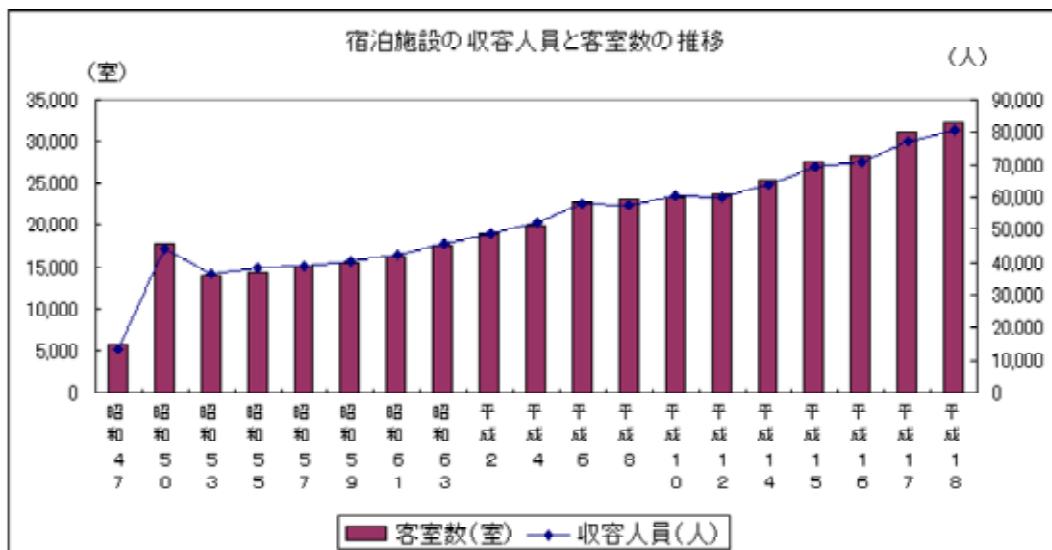
項目	単位	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
営業収入	(千円)	7,021,491	7,643,859	7,765,561	7,241,067	7,956,927
車両数	(両)	680	663	679	756	822
輸送人員	(千人)	5,635	5,820	5,845	5,679	6,095
のべ実働車両数	(日車)	150,369	152,289	152,468	143,782	158,317
1日1車当たり走行キロ	(km)	126	124	124	124	122
1日1車当たり輸送人員	(人)	37	38	38	39	38
1日1車当たり営業収入	(円)	46,695	50,193	50,932	50,361	50,259

資料：運輸要覧

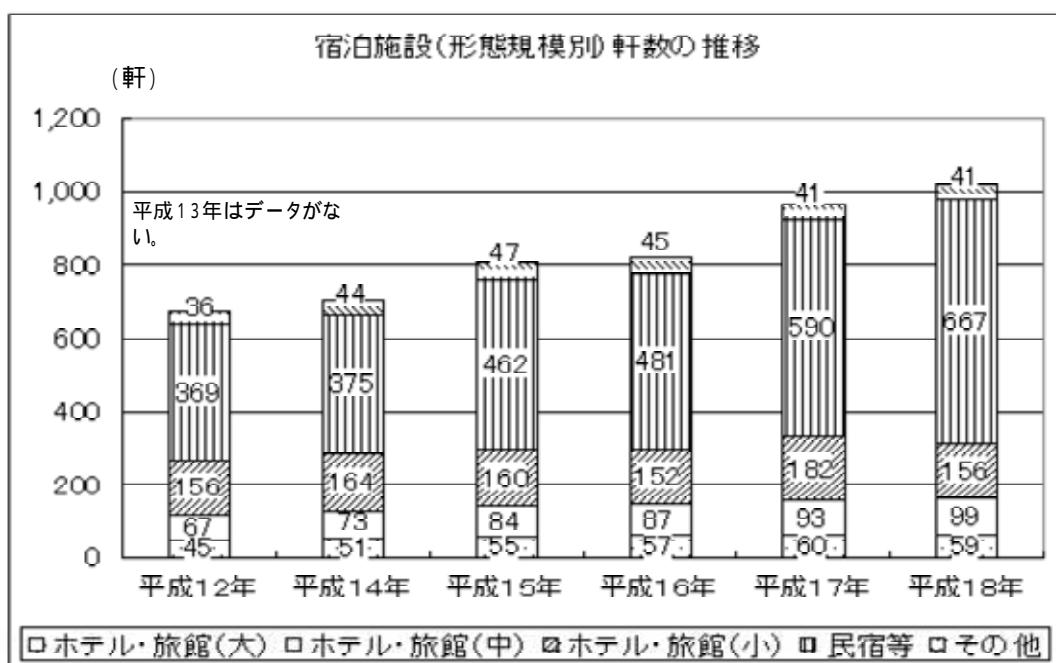
才 宿泊施設

本県の宿泊施設は、平成18年10月現在1,022軒あり、客室数は32,320室、収容人員は80,746人となっている。入域観光客数の増加に伴い着実に整備が進められており、特に平成17年以降の増加が著しい。

施設形態規模別にみると、民宿等が増え、小規模のホテル・旅館の減少がみられる。観光客のニーズに対応したものだが、今後の観光の動勢によっては、競合が激化する懸念がある。

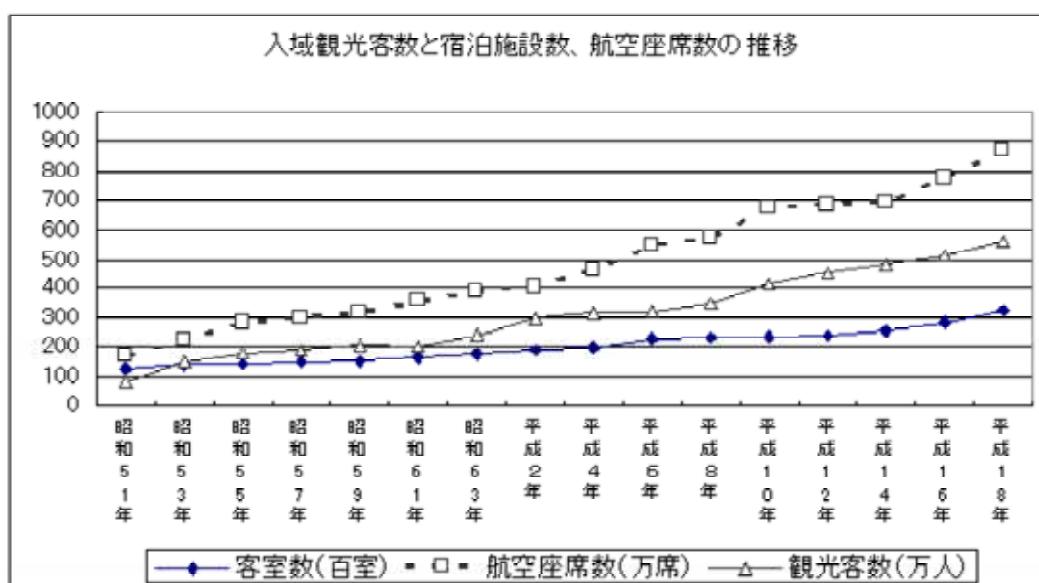


資料：沖縄県観光要覧



資料：沖縄県観光要覧

本県の宿泊客室数は、若干のタイムラグはあるものの、入域観光客数及び航空座席数の増加とほぼ並行的に推移してきた。



資料：沖縄県観光要覧